

第4回 豊平川さけ科学館  教えて!!

学芸員のおしごと

学芸員とは、美術館や科学館、博物館などで、専門的な資格を持って資料の収集や研究に当たる職員のこと。しかし、業務はそれだけにとどまらず、実にさまざまです。このコーナーでは、札幌で活躍する学芸員さんに、自らの仕事について紹介してもらいます。



今月の学芸員 ^{あるがのぞみ} 有賀望さん

大学院では河畔林について研究していたが、平成11年にさけ科学館に採用されて以後、サケなど川の生態系についても学ぶ。サケの遡上調査から売店での物販まで広く担当。

豊平川さけ科学館とは

1978年から始まった、豊平川にサケを呼び戻す「カムバックサーモン運動」を受けて、84年に開館した施設。サケなどに関するさまざまな資料の展示や体験行事を行っています。



稚魚は、豊平川のおいを記憶していて、北太平洋をアラスカ湾まで回遊した後、おいを頼りに豊平川に戻ってきます



春、サケの稚魚を豊平川に放流

一時期水質汚染が進み、サケの姿が消えてしまった豊平川ですが、水質が改善され、1979年から稚魚の放流を始めました。放流する稚魚は約20万尾で、毎年約1,000尾～2,000尾のサケが帰ってきています。市民が参加できるサケ稚魚体験放流もあります。

2 秋、帰ってきたサケの遡上調査

豊平川に帰ってきたサケが、人工的に放流したものなのか、自然に帰ってきたサケから生まれたものなのかを調べています。最終結果は2011年にまとまる予定ですが、今のところ、自然産卵のサケが約7割、放流したサケが約3割という結果になっています。

放流時にあぶらびれという、泳ぐのに使わないひれを切っているのので、自然のサケと区別できます



おなかから卵を取り出す作業は、初めは尻込みする子もいますが、最後にはみんな興味津々でやっています

3 子供たちがサケに触れる機会づくり

川でサケの観察会を開いたり、人工授精や放流を子供たちに体験してもらったりしています。命の循環を学び、その尊さを感じてもらえたらうれしいですね。ほかにも、川の生き物を捕まえるなど、自然に触れ合える催しを開催しています。

行ってみよう! さけ科学館

所在地 南区真駒内公園内 電話番号 582-7555 開館時間 午前9時15分～午後4時45分
休館日 月曜(祝日の場合は次の平日、12/29～1/3) ホームページ www.sapporo-park.or.jp/sake